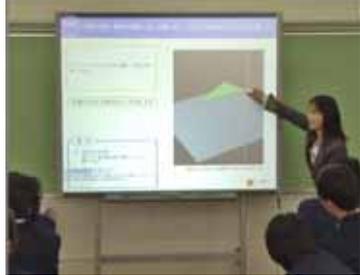
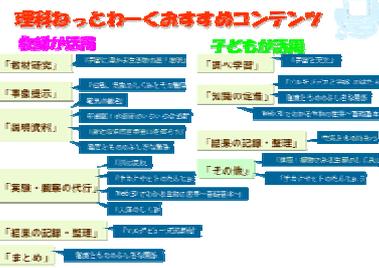


日野市における ICT 活用のポイント

(1) 授業での ICT 活用

<p>児童・生徒の個に応じた学習を実現するための ICT の活用 (インタラクティブ・スタディ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データに基づいた個別指導。 ・互いに教え合う学習。 		
<p>クラス・学年・学校を越えた共同学習のための ICT の活用 (スタディノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お米の共同学習 ・大学生との俳句学習 		
<p>学習の過程を蓄積し、学び合いと振り返り活動(自己評価, 相互評価)のための ICT の活用 (スタディノートのポートフォリオ機能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朗読 ・理科実験記録ノート 		
<p>教科学習における分析ツールとしての ICT の活用 (スタディノート・ポスター機能, マップ機能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はかる道具の分類 		
<p>教科学習における思考を深めるための ICT の活用 (カブリジオメトリ, バタフライマップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平行移動してできる図形 ・国語の読みを深める 		
<p>デジタルコンテンツ(動画)の効果的な活用 (理科ねっとわーく・日野市の理科を教えている教員の 80% が理科ねっとわーくを活用)</p>		

(2)校務のためのICTの活用

校務支援システムの活用

教育課程を管理する機能、児童・生徒の理解を深める機能等を業者と開発して追加。積極的に活用。

- ・日常的に全教員で子供のがんばりやよさを蓄積する「ひのっこ宝箱」通知表の所見へ。通知表の印刷は5分。ファイルへの綴じ込み。
- ・掲示板で情報共有。教材や週案も共有して、教員同士で学び合い。
- ・朝会はいいさつのみ。ペーパーレス化で会議短縮。クリアデスク。



校務の効率化 情報の共有 教育の質の向上



(3)見える学校のためのICTの活用(CMSによる日常的なWebサイトによる情報発信)



平山小学校 学校 Web サイト

<http://www.e-hirayama.hino-tky.ed.jp/>

(4)教育の情報化の前提となるセキュリティ対策

ポイント：ポリシー，技術的対策，教員研修，監査員訪問
ハード面・システム環境面のセキュリティ対策と運用面での対策
データを管理するサーバー室

各学校のデータは、記録媒体には保存しない。データセンターのサーバー内に保存される。このサーバー室は暗号と静脈認証で決められた職員のみ入室可能。

「ICTセキュリティカード」

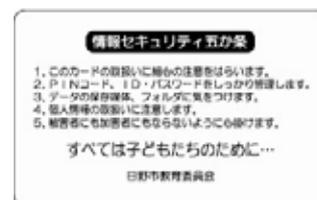
全教職員に「ICTセキュリティカード」と呼ばれる非接触型ICカードを配布し、それを利用したユーザ認証によって、コンピュータへのログイン、校務支援システムへのアクセス制限等、情報セキュリティを確保している。情報資産は、内容により3つに分類されており、それぞれの管理方法が決まっている。持ち出せるデータは、決められた暗号化USBメモリ(教員数分配布)を使用し、使用する際は、使用台帳に明記し、校長の承認を得る。こうした運用状況等は、年1度のセキュリティ審査で現場指導監査を受ける。

教員のセキュリティ意識の向上・・・教員研修の実施

管理職対象、担当教員対象、転入教員対象に、それぞれセキュリティ研修(講義、実習)を実施。

全教員対象に講演会(情報安全教育)を実施

全教員対象に個人研修(e-Learning 個人情報保護)を実施



． 日本の教育の情報化の今後の課題と対策

(1)効果的なサポート体制（教育ＣＩＯ，学校ＣＩＯ，ＩＣＴ支援員）の在り方を広く知らせる

【課題】サポート体制に関する文部科学省のモデル事業の成果が一般には全く知られていない。

【方策】教育委員会，校長等を対象とするシンポジウムを全国８会場で開催して，各モデル地域がどのように取り組み，どのような成果を上げたのかを公表する。また，分科会によりテーマ別に，参加者からの質問に対応し，情報交換する。

【予算】会場費，講師旅費，講師謝金など

(2)小規模教育委員会における教育の情報化を支援する仕組み作り

【課題】指導主事が配置されていない小規模な市町村教育委員会の多くが，教育の情報化のビジョンを持つことができず，機器等の導入のみで終わっている。結果として，その地域の校長会，学校も教育の情報化から疎遠になっている。これらの地域は，機器導入業者の提案だけを便りにしていることが多い。

【方策】複数の小規模教育委員会，校長会，その地域の大学等から構成される情報化推進コンソーシアムを構成し，教育の情報化の具体的な方策をたて，実行する。このコンソーシアムには，文部科学省から専門家をアドバイザーとして複数回派遣する。また，学生がＩＣＴ支援員の一部の仕事をボランティアとして担う。

【予算】交通費，アドバイザー旅費・謝金など，少額でもよいので多くの地域に配分する。

(3)新任教員のＩＣＴ活用指導力の向上を図る

【課題】現職教員のＩＣＴ活用指導力を向上させても，４月になるとＩＣＴ活用指導力が不十分な新任者が就職してくる。また，コンピュータを日常的に活用していても，教育における利用に否定的な考え方を持っている新任者が多い。

【方策】教員養成段階におけるＩＣＴ活用指導力向上の対策を教員養成系大学が実施する。とくに，教育実習でＩＣＴを活用した指導を経験させる。また，教育におけるコンピュータ等の活用に対して否定的な考え方を有している学生の意識改革を図る。

【予算】教員養成学部（附属学校を含む）の教室に大学としてのＩＣＴ機器・ソフトを整備する。また，小中学校と同様の機器・ソフトを体験できるよう整備する。

(4)教科の思考を深めることに役立つソフトウェアの開発

【課題】授業の中で効果的に活用できる例題対応のシミュレーション的なソフトが不足している。明日の授業で使いたいと思ったとしても自作は困難。そんなとき，対応して作成してくれる仕組みがあると便利。

【方策】教科内容を分かりやすく説明したり，児童・生徒が自ら操作して理解を深めたりすることに役立つ小さな単位のソフトを教員のニーズにあわせて開発し，流通させる。

【予算】ニーズ調査費，開発費，普及費